



さくら

題字 足立区長 近藤 やよい
足立区民生・児童委員協議会だより

発行

足立区民生・児童委員協議会
会長 宮崎 十三
編集 広報委員会
発行日 2015年11月1日
〒120-8510
足立区中央本町1-17-1
TEL 03-3880-5870



栗島小4年 河原すずな 作「風の神様 風神」

目次

全員研修会	2
会長協議会 視察研修	3
赤い羽根共同募金	4
映画「隣る人」2度目の受賞	5
介護ってなあに	6
子育て応援団	7
会長協議会 夏季懇親会	8
編集後記	



全員研修会を省みて

去る8月6日に開催した足立区民生・児童委員協議会主催の全員研修会には、石川副区長、足立区議会高山のぶゆき議長、東京都民生児童委員連合会の役員の皆様、区内三消防署、四警察署の皆様をはじめとする多くの皆様方にご臨席を賜りました。この場をお借りして改めて厚く御礼申し上げます。

アトラクションの部では、当会コーラス部「^{あだち}葦立コール『絆』」が「五色桜」を披露しました。今年4月の足立区社会福祉協議会設立60周年記念式典でデビューしてから2回目の出演にして、各部員の落ち着いた姿勢で素晴らしい歌声を聴かせて頂きました。短い期間に素晴らしく成長した部員に心からエールを送る次第であります。

講演会には、教育長定野司様を迎え「成長が実感できる教育をめざして」と題して、教育改革の目的や足立区のボトルネック的課題についてご講演頂きました。民生・児童委員

会長 宮崎 十三

として、足立区の教育の課題を理解し、私たちの活動に活かしていただきたいと思います。

また研修時に配付した活動事例集は、私たち民生・児童委員が関わった出来事について委員自身が筆を執り自分の言葉で綴ったものであります。高齢者の緩やかな見守り活動から児童虐待が疑われる深刻な対応まで様々な事例がこの一冊に収められています。この事例集は、言うなれば民生・児童委員の教科書です。足立区の民生・児童委員、協力員の皆様におかれましては、ぜひすべての事例に目を通していただきたいと重ねてお願いいたします。

この全員研修会の企画段階からご尽力を賜りました中田特別顧問、小久保会長職務代理を初めとする合同会長会の皆様、PRグッズ提供等でご協力いただいた行政各所管があったと重ねて感謝申し上げます。今後引き続きのご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。



8月6日 全 員 研 修 会



今年も8月6日酷暑の中、西新井文化ホールにて全員研修会が開催されました。

これは、足立区の民生・児童委員が活動のレベル向上と交流を深めるために実施している研修で、今年も多くの来賓を迎え、総勢約800名で開催されました。

オープニングのアトラクションは、昨年発足した、民生・児童委員協議会コーラス部葦立コール『絆』の皆さんで、曲は合唱組曲「五色桜」より「春はめぐりて」他2曲でした。

衣装も歌も大変素晴らしく、立派なコーラスでした。

式典に移り、宮崎連合会長に続き、来賓として石川義夫副区長、高山のぶゆき区議会議長のご挨拶がありました。

その後、足立区教育長定野司氏の「成長が実感でき

る教育をめざして」という題で講演でしたが、前段では、氏が以前かかわった防災対策の話が紹介され、東日本大震災時の足立区に滞留した帰宅困難者の対応

の難しさや、実際に行った阪神・淡路大震災の被災から得た教訓の話など、私としては表題の話よりこの方が興味深く聞けました。

足立区は教育上の深刻な問題があるものの、数カ所に大学が開設され、花畑に文教大学の誘致が決まったという嬉しいニュースが紹介されました。

氏は、文教都市として「西の小金井市、東の足立区」と言われるようにしたいと力説され、このフレーズは斬新で面白い発想と感じることができました。

(花畑地区 鈴木恒雄 記)



▲自身の体験を熱く語る定野教育長



▲葦立コール『絆』によるアトラクション

広報紙「さくら」アンケート結果

回収数 325 名 (回答率 36.1%)

全員研修会にて、来賓及び民生・児童委員、協力員に「さくら」に関するアンケートを実施しました。ご協力くださった皆様に御礼申し上げます。

「さくら」の印象についての評価は下表の通りです。「良い」「やや良い」を合わせるとほとんどの項目で6割を超えましたが、『②前回との印象と比較すると』52.3%、『④文字の大きさ』56.6%は他の項目に比べて低い評価となりました。

また、取り上げてほしい話題についての質問では、「子どもの貧困」「私のまちの災害対策」「活動事例報告」が上位となりました。皆様のご意見を真摯に受け止め、早速今号より文字の大きさや間隔を改善していきます。

皆さまの貴重なご意見は、今後も紙面作成に活かしていきたいと思えます。

【「さくら」の印象】

	良い	やや良い	普通	やや悪い	悪い	無回答
①全体の印象	20.3%	41.5%	35.7%	0.6%	0.0%	1.8%
②前回との印象と比較すると	15.4%	36.9%	41.2%	0.0%	0.0%	6.5%
③読みやすさ	19.1%	41.5%	34.8%	2.8%	0.0%	1.8%
④文字の大きさ	19.1%	37.5%	32.9%	8.0%	0.3%	2.2%
⑤挿入されている小中学生の作品	26.8%	40.6%	24.0%	0.6%	0.0%	8.0%

※小数点以下端数調整のため合計値が100%でない項目があります。



6月3日～4日 会長協議会 視察研修

児童養護施設「明生学園」

6月3日、4日の会長協議会視察研修は、山梨県甲斐市にある児童養護施設「明生学園」に伺いました。

児童養護施設とは、保護者のいない児童、虐待されている児童、その他環境上養護を要する児童を、保護者に代わって養護する施設です（児童福祉法による）。

平成24年完成の園舎は明るく清潔でした。しかし、入所理由のほとんどは虐待とのこと。18名の職員が、寝起きを共にし、全力で彼らを受け止めています。児童30名のうち15名はすでに高校生、家庭に戻ることなく社会に巣立って行きます。

次長の岩下さんの言葉「私たちの仕事は子どもへ安心できる居場所を提供することで、心が沁みましました。我々民生・児童委員の役割は、このような子ども達をもっと前の段階で見逃さないことなのかもしれない、と考えさせられる研修でした。



▲宿泊ホテルの庭園にて

(広報委員長 秋本雅信 記)

各委員会・部会 26年度活動報告

主任児童委員会

こども支援センターげんき職員との意見交換会、新任主任児童委員による報告と意見交換会、児童養護施設「クリスマス・ヴィレッジ」視察。このほか小中学校教職員向けPRリーフレットの作成、合同別自主活動、要保護児童対策地域協議会地区連絡会を通じ、児童関係機関との連携を図りました。

広報委員会

足立区民児協の活動を広くPRするため、民児協の行事や取組を紹介する広報紙「さくら」（年3回）及びダイジェスト版を発行しました。毎月編集・校正・レイアウト会議を開催しています。

また、区内の小中学生の作品を「さくら」に掲載し、PR週間の式典で感謝状を贈呈しました。

専門部会

	講義・講演会	施設見学
高齢者福祉研究部会	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の消費者被害について ・高齢者疑似体験 ・孤立死と自死について 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別養護老人ホーム ピオーネ西新井
障がい者福祉研究部会	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい者団体や家族会の方からお話を伺う（足立区視力障害者福祉協会会長・足立区手をつなぐ親の会会長・足立区精神障害者家族会あしなみ会会長） 	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい福祉センターあしすと ・精神障がい者自立支援センターふれんどりい ・竹の塚ひまわり園
児童福祉研究部会	<ul style="list-style-type: none"> ・こどもの問題を知る（児童虐待の現状と防止の取り組みについて） ・足立区のこども施策について 	<ul style="list-style-type: none"> ・クリスマス・ヴィレッジ ・暁星学園（いずれも児童養護施設）
生活福祉研究部会	<ul style="list-style-type: none"> ・生活保護の現状と課題について ・生活福祉資金について ・生活困窮者支援制度について 	<ul style="list-style-type: none"> ・更生施設「しのぼず荘」
子育て支援研究部会	<ul style="list-style-type: none"> ・足立区の保育行政について ・児童虐待の現状と民生・児童委員としての対応について 	<ul style="list-style-type: none"> ・二葉乳児院

コーラス部会

平成26年7月にコーラス部「葦立コール『絆』」結成。月2回練習し、27年4月に足立区社会福祉協議会60周年記念式典にてコーラスを披露しました。



10月1日 赤い羽根共同募金 梅島駅

お天気に恵まれ例年通り10月1日に足立区の各駅頭で募金活動を行うことができました。11地区は梅島駅に集まり7時30分から9時15分まで担当しまし



▲中学生も募金にご協力くださいました

た。通勤時間帯に当たり多くの方が行き交う中、足立区社会福祉協議会の職員の方がのぼり旗を持って力強く声掛けをして下さいました。そして、民生・児童委員も日頃なかなか大きな声を出すことはありませんが、ここぞとばかりに声を張り上げ募金の協力をお願いしました。

そのような中、都民の日とあって小学生・中学生も足を止めて募金をしてくれました。多くの人の「たすけあいの心」にふれ、温かい気持ちになれた一日でした。

(11地区 櫻井春子 記)

生活福祉資金の研修を受けて

生活福祉資金貸付制度は、資金の貸付により経済的な自立が見込まれる方に対する支援です。

まず、貸付金は給付金とは違い返還が必要なので、制度が本当にその方に適した支援かどうかの相談を受け、社協と民生・児童委員の継続した支援が必要であることを、東京都社会福祉協議会福祉資金部 長谷部俊介さんより伺いました。

次いで、埼玉県立大学の長友祐三教授より、27年度に始まった生活困窮者支援法に基づく支援事業についてお話があり、「居住確保支援」「就労支援」「緊急的な支援」「家計再建支援」「子ども若者支援」等、本人の状況に応じた支援ができることを学びました。

利用者になるべく生活保護を受けずに自立した生活ができるように、支援の幅が広がるのは良いことだと思います。

私たち民生・児童委員が地域で、できるだけアンテナを張って、支援に結び付けていけたら良いと思います。



花畑西小3年 柿田凜 作

しかしながら、どの支援がその方の自立につながるかを見極めるのはより一層難しくなるので、民生・児童委員と行政・社協がスムーズに連携できるような工夫も必要だと思います。

(5地区 藪下奈穂美 記)

広げよう 地域に根ざした 思いやり



映画「隣る人」2度目の受賞

3年前、多くの人々の心に衝撃を与えたドキュメンタリー映画「隣る人」が、文化庁・文化記録映画大賞に続き、平成27年5月11日、厚生労働省・児童福祉文化賞を受賞しました。

この映画の制作者である、7地区民生・児童委員の稲塚由美子さんは、公開後3年を経てまた受賞したことについて、近藤足立区長が先頭に立って決意表明している様に、昨今「子どもの貧困」が社会問題になっていることが、理由のひとつではないかと述べられています。

稲塚さんの、日々の民生・児童委員活動の原点ともいえるこの映画は、現在も全国各地や海外でも上映さ

れ続けているとのこと、稲塚さん自身も、講演等で忙しい日々を過ごしているそうです。

話を聞き終えて、この映画はともすれば煩わしい問題を避けたがっている私に、目を開け！区長に続き強い決意で日々の活動が続けよ！と背中を押しているように思いました。

平成27年度 児童福祉文化賞
～世界には君の輝く場所がある～



(7地区 志賀口博人 記)

街角の風景

我が町にある絆溢れる『一本木公園』(鹿浜6-18)をご紹介します。

子どもの遊具、大人の健康器具、ボール遊びのできる広場、緑豊かな木々に囲まれ、大きくはないですが整っています。何より素晴らしいのは、公園に来られている皆さんです。

お年寄りや子どもがカラスに襲われるのを見て、巣を駆除したり、遊びに夢中の子ども達に「危ないぞ」と声をかけ見守り、「公園がきれいだと人の心も落ちつくから」と、缶やゴミを拾って清掃してくださっているのです。

このような真心が「安心して遊べる公園」として伝

わるのでしょう。よく近所の保育園、幼稚園児が来て、可愛い歓声をあげています。沢山の方が



▲ペットを囲んで談笑される皆さん
日課のように来られるのですが、お互いに家も名前も知らない仲なのだそうです。

皆さんに「この公園に何が必要ですか？」と伺うと、「顔を見て話ができるベンチを増やして欲しい」とのことでした。今日も楽しそうな声が聞こえます。

(鹿浜地区 久保幸子 記)

第20回足立区こころの健康フェスティバル

heart to heart ～みんなをつなぐやさしい心～

区民のこころの健康づくりとこころの病に対する知識と理解を深めるためのイベントが今年20回を迎えます。記念式典、記念講演のほか、作業所等の自主製品販売、相談コーナー・当事者作品や活動の展示等を行います。

民生・児童委員協議会はこのイベントを後援し、毎年バザーを開催しています。皆さまのご協力とご参加をお待ちしています。

開催日：平成28年3月5日(土)

会場：足立区役所 庁舎ホール・区民ロビー・正面広場



加平小4年 桜井大地 作『太古の海のダンクルオステウス』



グループホーム すずめのお宿

すずめのお宿・西新井は、介護予防認知症対応型の施設で、共同で自立した生活を送るグループホームです。すずめのお宿を利用できるのは、要支援2から要介護5までの方で、認知症と診断され、共同生活ができ、常時医療を必要としない人です。利用料金は、家賃や食費などと介護保険の負担相当額を合算した金額となり、1カ月の費用の目安は、およそ13万円から17万円となります。また、日常生活上必要な物品、医療費は別に必要です。ここでは炊事や洗濯など自分でできることは自分で行います。

「入居者同士協力し、お互いを認め合うことにより、尊厳ある日々を送ることは認知症も和らげる」との施設の方からのお話しでした。入居者の方は、地域社会の一員としてスタッフと共に町内の行事にも参加しま



▲入居者にあたたかく寄り添う職員

す。買い物に同行したところ、料理の得意な方が、「作って皆で食べる」と張り切って食材を選んでいました。人のためにやりがいを感じることで、自分にとっての喜びにつながっているようです。

(10地区 渡邊進 記)

町会自治会「地域を訪ねて」 シリーズ3 洵江町会自治会連合会

この地域は、古くは旧日光街道を中心に栄え、現在も中央には国道4号線が縦断しています。鉄道は、西側に東武スカイツリーラインが走り、竹ノ塚駅東口周辺は、にぎわいのある商業地区を形成しています。北部地区には、集合住宅や公共的な施設が多く、清掃工



▲加入促進事業に取り組み澤田榮介連合会長と竹の塚区民事務所 杉山喜美子係長 イトーヨーカドー竹の塚店にて

場の余熱を利用した温水プールを備えたスポーツ施設もあります。南部地区は、歴史ある寺社などが多く、昔からの道路を残しつつ市街化整備がされています。

鉄道の高架化は、伊興地区と連携し、四半世紀にわたって取り組んできた課題です。平成17年3月の踏切死傷事故発生後、取り組みを強化し、「竹ノ塚駅付近鉄道高架化促進連絡協議会」を組織しました。平成24年11月に起工式を行い、皆様のご協力で順調に工事が進んでいます。また、高架化に伴う周辺地区のまちづくりを検討するための「竹ノ塚駅周辺地区まちづくり連絡会」も、活発に活動を推進しています。

地域には、60を超える町会自治会があり、42の町会自治会が連合に加入しています（平成27年10月現在）。

(洵江町会自治会連合会事務局 竹の塚区民事務所長 嵯峨浩二 記)

足立区は活動記録提出率100%継続中です



子育て応援団



シリーズ

子どもたちは いま 2

足立区の「子ども・子育ての施策」



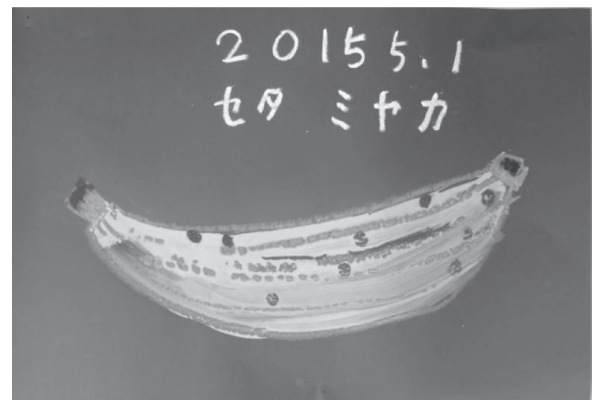
今回は、山根晃子ども家庭課長に区の「子ども・子育ての施策」についてお話をお伺いいたしました。

平成27年度は、新教育長の就任、「子ども・子育て支援新制度」のスタート、「子どもの貧困対策元年」と多くの取り組みを開始しました。区では、こども家庭課、子ども・子育て支援課、子ども・子育て施設課、青少年課、保健総合センター、こども支援センターなど様々な部署で支援を行っており、母子手帳交付の時から継続的な支援をつなげています。それらの子育て支援事業や相談機関の案内等をコンパクトにまとめた「あだち子育てガイドブック」を発行しています。

今年度新規・拡充事業としては、乳幼児健診の受診率向上、歯科検診の強化、子どもの健康生活実態調査、あだちはじめてえほん事業（乳幼児健診に絵本を配付する）などがあります。

教育分野では、「スクールソーシャルワーカー制度」を導入しました。児童・生徒の抱える困難な課題に対応するため家庭や地域などに働きかけるとともに、関係機関のネットワークを構築し、支援を強化していきたいというお話でした。

(常東地区 齋藤祐子 記)



桜花小5年 瀬田京楓 作

中学生俳句コーナー

夕立に 流されぬよう 走る蟻

一年 牧 美紗穂

かたつむり
蝸牛 ウミガメのごと 一歩ずつ

一年 松尾 隼大

祖父とさす 将棋対決 夏の夜

一年 川島 聖龍

立たち佞ね武ぶ多た
吉幾三が 盛り上げる

一年 周藤 辰輝

転んでも また起き上がれ コガネムシ

一年 若林 拓海

暑い中 働く父に 肩叩き

一年 蝦名由佳理

夏休み 初めて入る 美術館

一年 勝又 貴志

夏の夜 雲からはみだす でかい月

一年 藤崎 智生

足立区立六月中学校

平成26年度「一茶まつり」に入賞しました。学年は当時のものです。

※立佞武多…青森県五所川原市で開催される夏祭り。高さ23mの巨大な山車だしが市内を練り歩きます。



8月6日 会長協議会 夏季懇親会



▲来賓として挨拶する近藤区長

8月6日、フラルガーデン東京で、会長協議会主催の夏季懇親会が行われました。

近藤区長を始め行政・区議会・東京都民生児童委員連合会の各関係者より、たくさんのご出席をいただき、温かいご挨拶を賜りました。

広報委員会と致しましては、東京都社会福祉協議会の荻野民生・児童委員部長より「さくら」の小学生絵画掲載についてお褒めの言葉をいただいたことが嬉しく、印象に残りました。今まで以上に気を引き締めて制作にあたりたいと思っています。

(広報委員長 秋本雅信 記)

ぶらり足立 足立の水運 1

足立区は四方を川に囲まれているというのはご存じのことと思います。

今はほとんど見られませんが、足立区周辺は、江戸時代から舟運が盛んに行われており、綾瀬川や隅田川は、今でいう国道並の繁盛をしていました。

舟1艘が、5tトラック並の輸送力をもっており、道路整備がされていない場所では、昔から水路は重要な運搬路でした。

写真は、綾瀬川、水戸橋上流を遡る機械船であり、遠方には当時の小菅刑務所の塀が望めます。船倉が空であることから、上流から何かを積んで、隅田川下流部で荷卸しして、帰路につくところと思われます。この他に綾瀬川では、田畑の肥料として下肥船（おわい船）が頻繁に往来しており、この船なくしては、米・野菜の生産は不可能であり、東京人の食糧も供給でき

なかったのです。今、また、非常時の物資運搬経路として、水運が脚光をあびています。

エネルギーの使用状況から考えると、舟運というのは、非常に効率的で有効な方法であり、今のようにエネルギーを大量に消費し、廃棄物を大量に発生させる方式というのは、いつか限界がくることを予想させるものであります。

(花畑地区 鈴木恒雄 記)



▲S30年頃の水戸橋付近 (西小菅自治会提供)

編集後記

広報委員になってまもなく2年になります。編集委員として携わっておりますが、ネットワークの乏しい私はなかなか貢献できず申し訳ない思いでございました。そこにレイアウトの話があり挑戦してみようと思いました。道のりは決して楽ではなさそうで

すが、先輩方に色々教えていただきながら精一杯させていたたくつもりです。これからもご愛読の程よろしくお願い致します。

(11地区 櫻井春子 記)

○小学生掲載絵画および中学生詩歌、俳句の依頼は、第一合同から第七合同地区の小・中学校に順番にお願いしております。

○皆様の原稿を募集いたします(原稿は未発表のものに限ります)。次号発行予定日 平成28年3月1日 原稿に関しては紙面の都合がございます。事前に地区広報委員にご相談ください。

広報委員会

- 委員長 秋本雅信
- 副委員長 数下奈穂美
- 書記 鶴田晴久
- 会計 金子みどり
- 編集 小島千恵子
- レイアウト 木内信雄
- 校正 江川明美
- 編集委員 齋藤祐子
- 山崎秀夫
- 田中礼子
- 渡辺進子
- 櫻井春子
- 森原稔子
- 坂井潤子
- 丸山まさ子
- 鈴木恒雄
- 校正委員 秋葉千秋
- 山本滝子
- 志賀口博人
- 久保幸子
- 福岡佳須子
- 戸張光子
- 西野いちよ
- 高橋和枝